

2019年3月期
決算説明会

2019年6月6日（木）

株式会社 岩手銀行



I. 経営の概況		II. 新中期経営計画	
2019年3月期の業績概要	3	当行の目指す姿	12
貸出金の状況	4	新中計の概要	13
預金等・預り資産の状況	5	新中計の時間軸	14
有価証券の状況	6	新中計の主要計数目標	15
与信費用・不良債権の状況	7	経営体質強化プロジェクト（BPR・店舗再編）	16
経費の状況	8	経営体質強化プロジェクト（事業領域の創出）	17
前中計の振り返り	9	事業性貸出	18
2020年3月期の収益計画	10	コンサルティング（法人のお客さま向け）	19
		コンサルティング（個人のお客さま向け）	20
		地方創生	21
		フィンテック	22
		ESG課題への取組み	23～24
		資本政策	25

I. 経営の概況



釜石鵜住居復興スタジアム（岩手県釜石市）

東日本大震災で被害の大きかった鵜住居町に2018年8月に完成した球技専用スタジアム。東北では唯一のラグビーW杯2019の試合会場であり、予選ラウンド2試合（フィジーVSウルグアイ、ナミビアVSカナダ）が行われる

単位：百万円

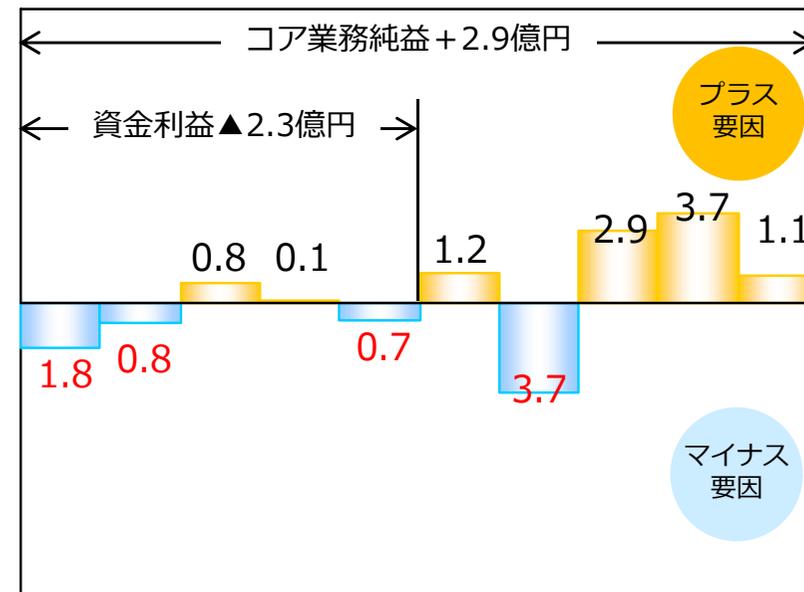
単体	2018/3期	2019/3期	前期比	計画比
経常収益	41,954	43,713	1,759	3,413
コア業務粗利益	33,584	33,101	▲ 483	1
資金利益	29,993	29,756	▲ 237	356
役務取引等利益	3,718	3,845	127	▲ 255
その他業務利益 (国債等債券損益を除く)	▲ 127	▲ 500	▲ 373	▲ 100
経費 (△)	26,151	25,370	▲ 781	▲ 830
コア業務純益	7,432	7,731	299	831
国債等債券損益	▲ 1,487	▲ 1,025	462	▲ 1,125
一般貸倒引当金繰入額 (△)	▲ 51	536	587	436
業務純益	5,996	6,169	173	▲ 731
臨時損益	2,021	249	▲ 1,772	▲ 351
うち不良債権処理額 (△)	260	3,598	3,338	3,098
うち株式等関係損益	2,260	4,070	1,810	3,170
経常利益	8,017	6,418	▲ 1,599	▲ 1,082
特別損益	▲ 214	▲ 76	138	▲ 76
当期純利益	5,474	4,469	▲ 1,005	▲ 731
与信関連費用	209	4,134	3,925	3,534

単位：百万円

連結	2018/3期	2019/3期	前期比	計画比
経常利益	8,283	6,329	▲ 1,954	▲ 1,271
親会社株主に帰属する当期純利益	5,523	4,186	▲ 1,337	▲ 1,014

※計画比は前回決算説明会（2018.6.6）公表との比較

資金利益、コア業務純益の増減要因

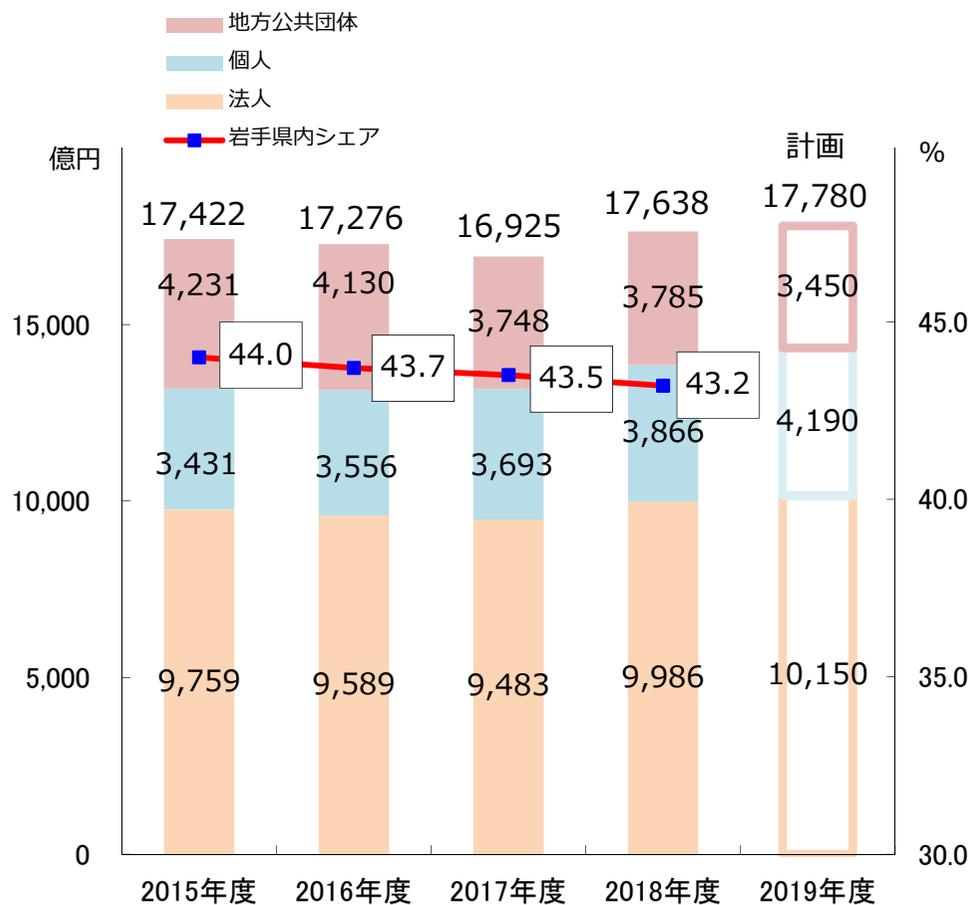


- 貸出金利の減少
- 有価証券利息配当金の減少
- 預金等利息の減少
- その他の資金運用収益の増加
- その他の資金調達費用の増加
- 役務取引等収益の増加
- その他業務費用の増加 (債券関係損益を除く)
- 人件費の減少
- 物件費の減少
- 税金の減少

大口与信先に対する貸倒引当金繰入額の増加を主因として与信費用が増加

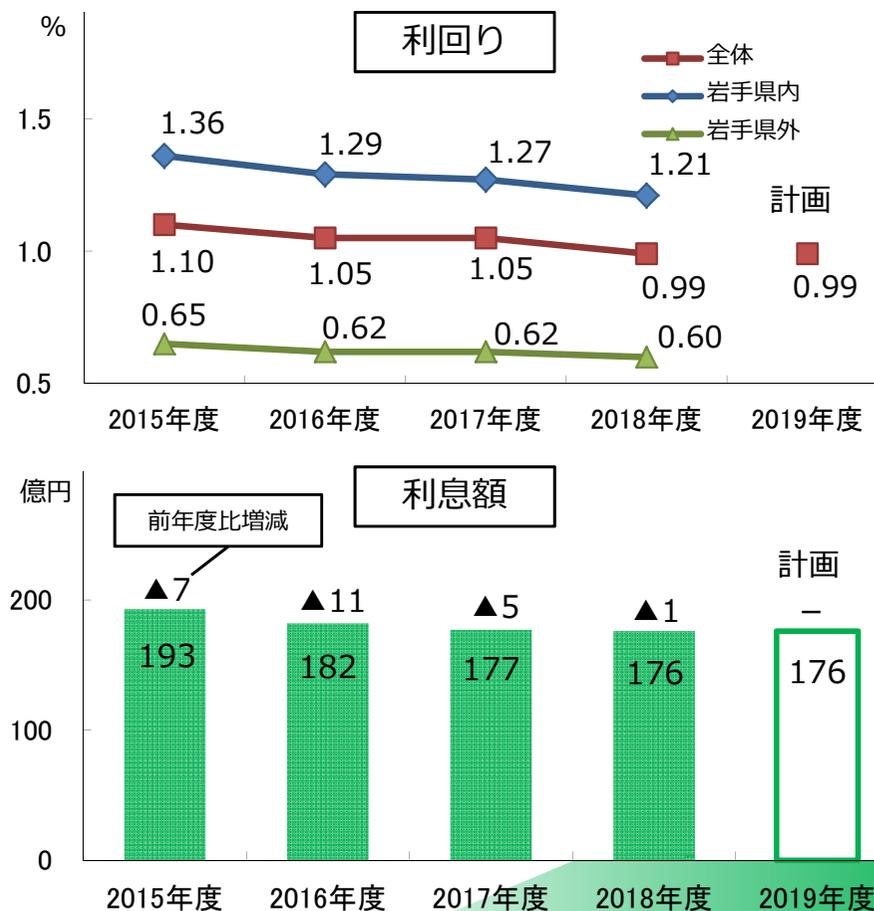
- 2018年度の貸出金平残は、法人向け貸出および個人向け貸出が増加したことから、前年度比713億円（4.2%）増加
- 2019年度は、地方公共団体向け貸出は減少を見込むものの、法人向け貸出および個人向け貸出は引き続き増加を見込むことから、前年度比142億円（0.8%）増加を計画
- 利回りについては前年度からの横這い程度を見込み、利息額については減少トレンドからの下げ止まりを見込む

貸出金平残の推移



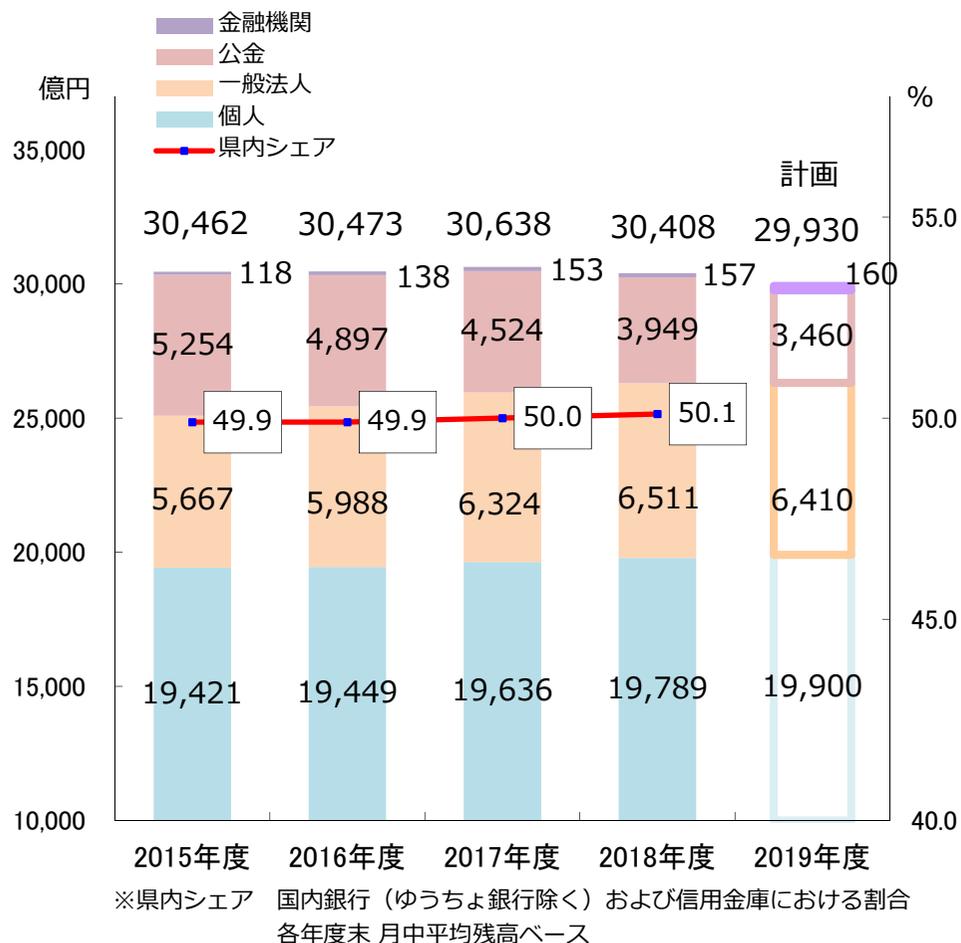
※県内シェア 国内銀行（ゆうちょ銀行除く）および信用金庫における割合
各年度末 月中平均残高ベース

貸出金利回りと利息額の推移

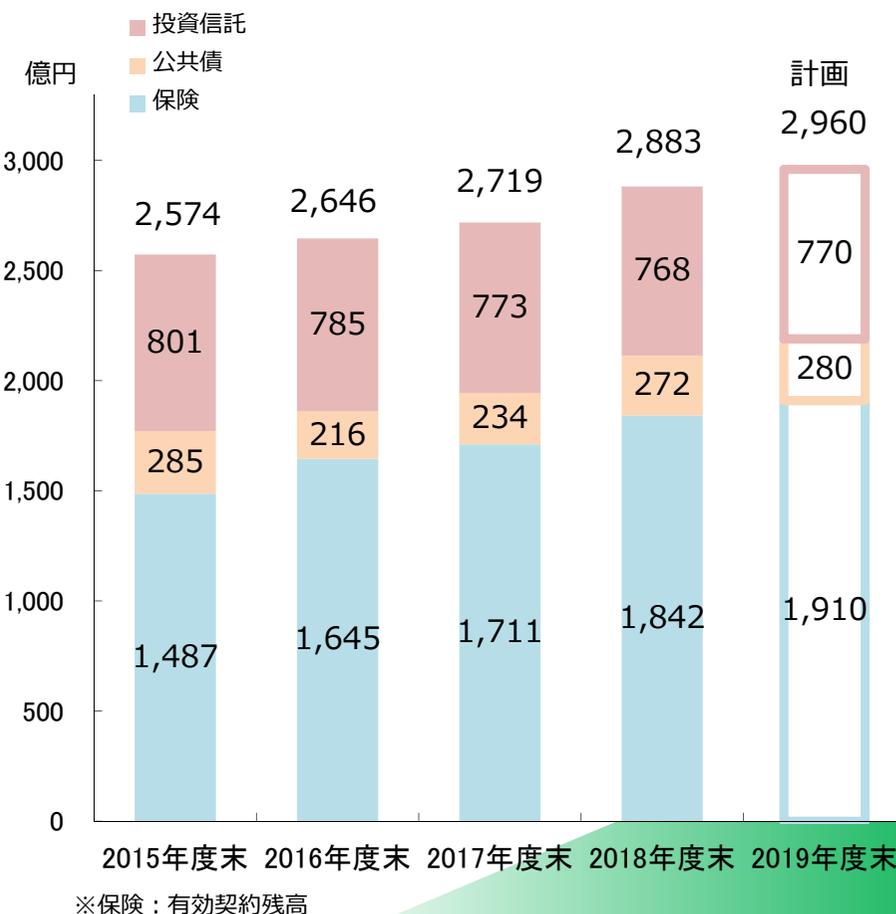


- 2018年度の預金等（預金および譲渡性預金）平残は、個人預金および法人預金は増加したものの、引き続き復興関連資金の取崩しを主因として公金預金が減少したことから前年度比230億円（0.7%）減少。2019年度は、引き続き公金預金が減少する見込みであることから、預金等全体で前年度比478億円（1.6%）減少を見込む
- 預り資産の期末残高は、保険および公共債が増加したことから前年度末比164億円（6.0%）増加。2019年度は前年度末比87億円（3.0%）増加を見込む

預金等平残の推移

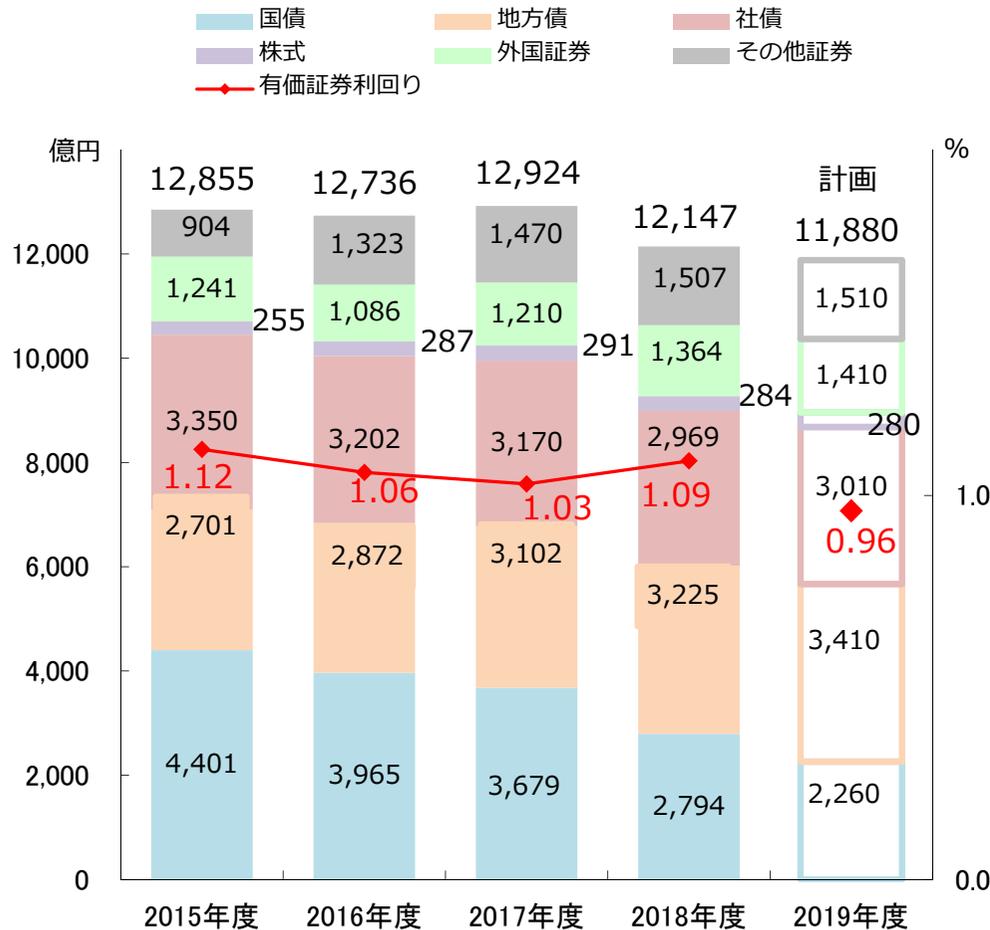


預り資産残高の推移

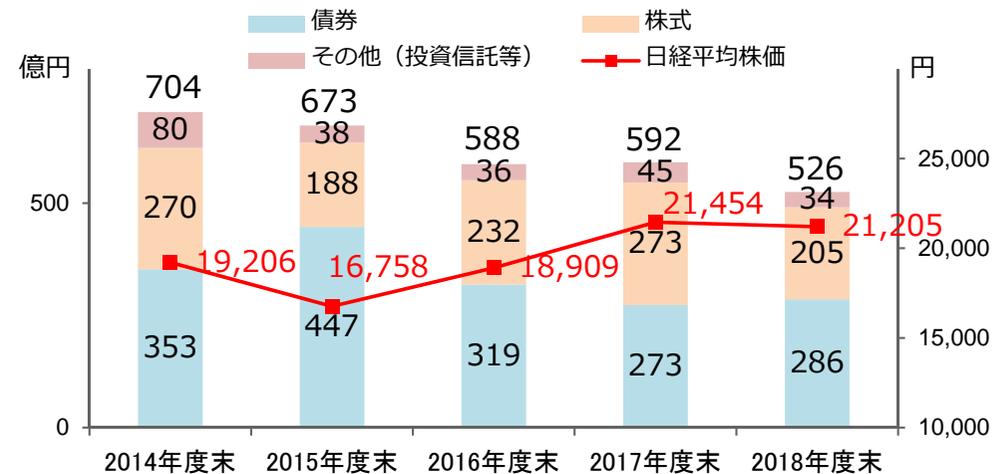


- 2018年度の有価証券平残（短期社債を除く）は国債等の運用残高が減少したことなどにより、前年度比777億円（6.0%）減少。評価差額（含み益）は前年度末比66億円減少。
- 2019年度は、マイナス金利環境に対応したポートフォリオの構築を継続するとともに、分散投資と機動的な運用を通じて収益機会を確保する。有価証券利息配当金は前年度比18億円（13.5%）減少の115億円を見込む

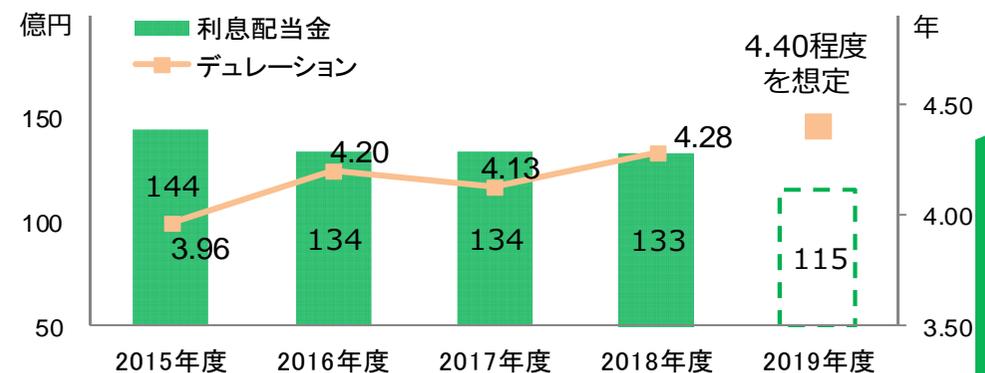
有価証券平残の推移 ※短期社債除く



有価証券評価差額の推移

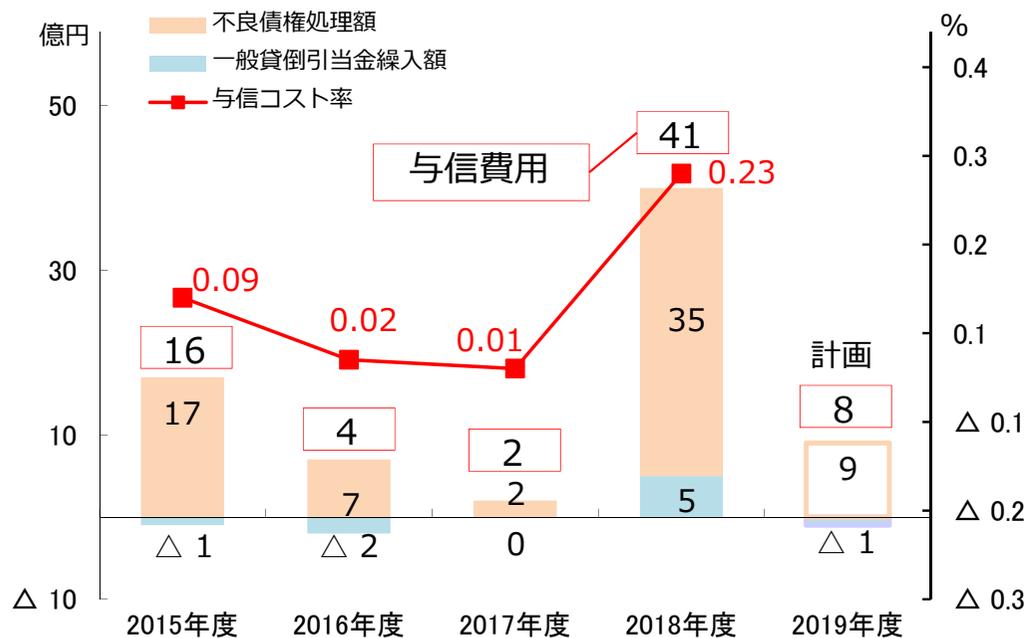


有価証券利息配当金・デュレーション

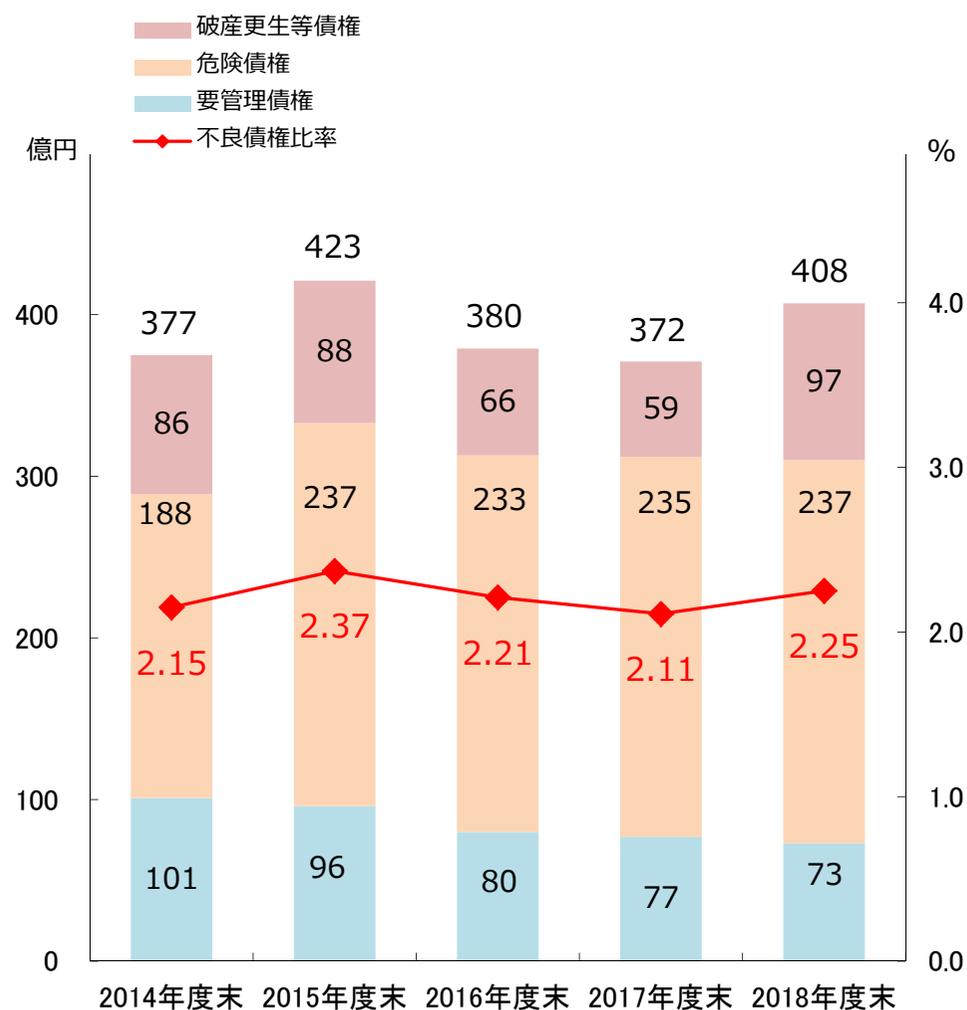


- 2018年度の与信費用は大口与信先に対する貸倒引当金繰入額の増加などにより、前年度比39億円増加。不良債権は前年度末比36億円増加し、不良債権比率は不良債権残高の増加により、同0.14%上昇
- 2019年度は貸出資産の保全と健全化に向けた取組みを強化し、与信費用は前年度比33億円減少の8億円を見込む

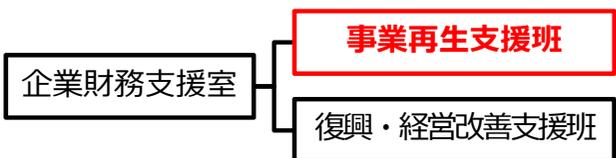
与信費用の推移



不良債権の推移

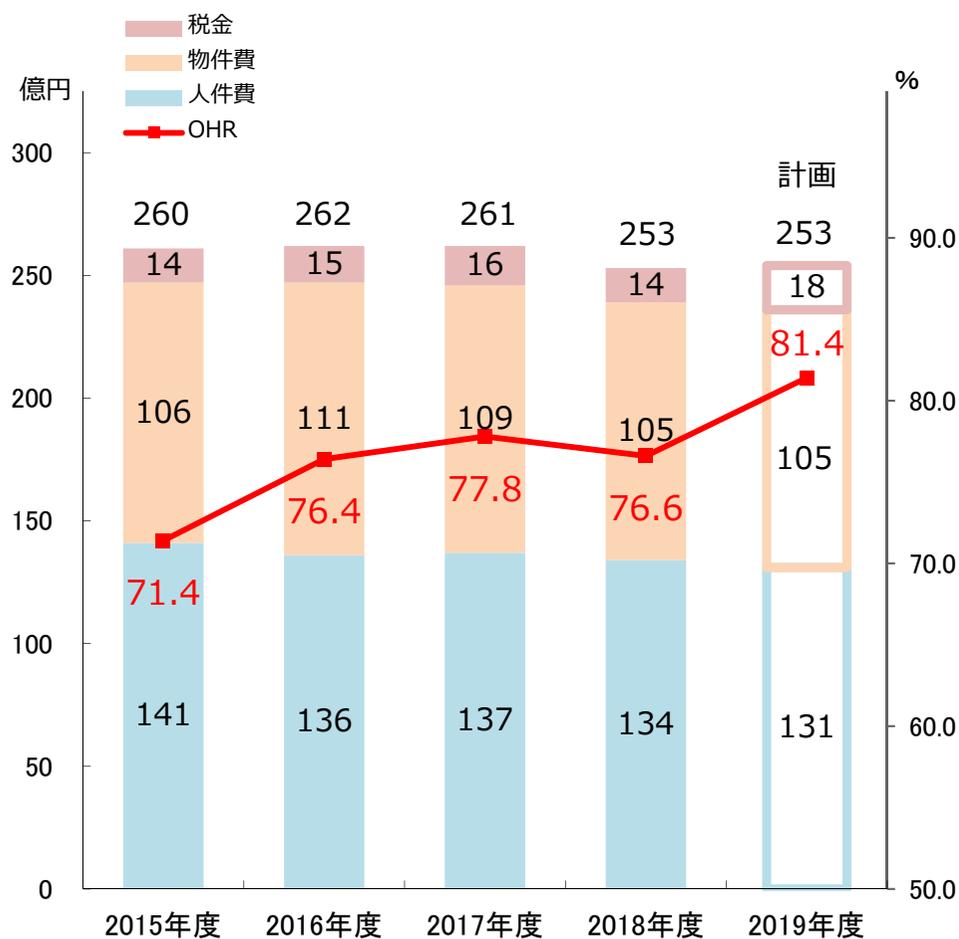


✓ 2019年4月、審査部内の企業財務支援室を再編。「事業再生支援班」を設置し、与信管理態勢を一層強化



- 2018年度の経費は人件費および物件費がともに減少したことから、前年度比8億円（3.0%）減少
- 2019年度は、人件費は引き続き減少する見込みであるが、物件費は前年度と同程度を見込み、税金については消費税率引き上げを前提として増加を見込むことから、経費全体では前年度並みになる見通し

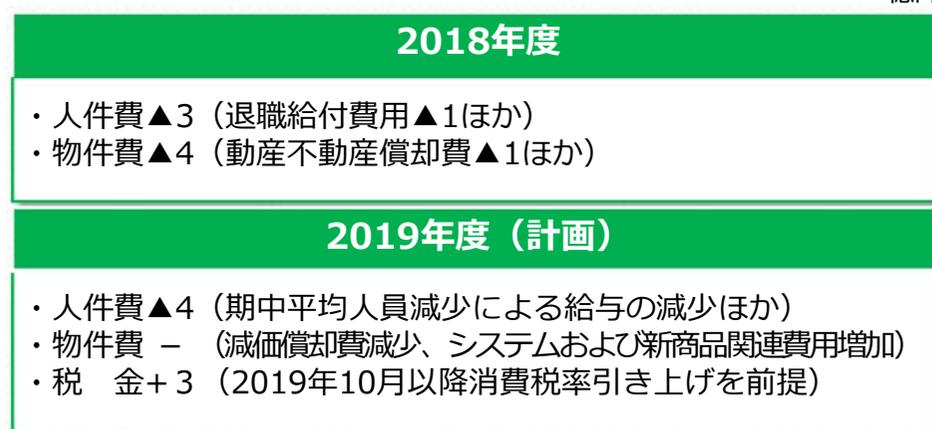
経費の推移



※ 経費は臨時処理分を除く

経費の増減要因 (対前年度比)

億円



従業員数の推移



- 前中計は、厳しさを増した環境を克服し勝ち残りを図るために、従来の枠組みからの変革を意味する「イノベーション」をキーワードとして、2016年4月にスタート
- 計画期間は2019年3月までの3カ年として、当行自らのイノベーションを進めるとともに、営業基盤である地域の地方創生を強化する取組みを推進



主要計数目標	2018年度目標 (最終年度)	2016年度実績 (初年度)	2017年度実績 (2カ年度)	2018年度実績 (最終年度)
連結当期純利益	60億円	101億円	55億円	41億円
自己資本比率	12%以上	12.77%	12.52%	12.24%
中小企業等貸出金残高	1兆円	9,008億円	9,553億円	1兆77億円
預り資産残高	3,700億円	3,050億円	3,179億円	3,337億円
長期的経営指標※				
連結ROE	5%以上	6.49%	3.37%	2.49%

※長期ビジョン「地域の牽引役として圧倒的な存在感を示すとともに、トップクオリティバンクとしての地位を確立する」の実現に向けて期間を定めずに常に挑戦していく目標

単体	2019/3期	2020/3期	前期比	(参考)
	実績	計画		第2四半期予想
経常収益	43,713	38,300	▲ 5,413	19,600
コア業務粗利益	33,101	31,100	▲ 2,001	15,750
資金利益	29,756	27,800	▲ 1,956	14,050
役務取引等利益	3,845	4,000	155	2,000
その他業務利益 (国債等債券損益を除く)	▲ 500	▲ 700	▲ 200	▲ 300
経費 (△)	25,370	25,300	▲ 70	12,750
うち人件費	13,400	13,050	▲ 350	6,500
うち物件費	10,525	10,500	▲ 25	5,350
コア業務純益	7,731	5,800	▲ 1,931	3,000
国債等債券損益	▲ 1,025	100	1,125	50
一般貸倒引当金繰入額 (△)	536	▲ 100	▲ 636	670
業務純益	6,169	6,000	▲ 169	2,380
臨時損益	249	▲ 100	▲ 349	320
うち不良債権処理額 (△)	3,598	900	▲ 2,698	330
うち株式等関係損益	4,070	750	▲ 3,320	500
うち退職給付費用 (△)	407	200	▲ 207	100
経常利益	6,418	5,900	▲ 518	2,700
特別損益	▲ 76	▲ 150	▲ 74	▲ 150
税引前当期純利益	6,342	5,750	▲ 592	2,550
当期純利益	4,469	4,000	▲ 469	1,800
与信関連費用 (△)	4,134	800	▲ 3,334	1,000

単位：百万円

連結	2019/3期	2020/3期	前期比	(参考)
	実績	計画		第2四半期予想
経常利益	6,329	6,000	▲ 329	2,700
親会社株主に帰属する当期純利益	4,186	4,000	▲ 186	1,700

収益計画の要旨

■ コア業務純益 (前期比▲19億円)

資金利益

- 貸出金利息は引き続き貸出金ポートフォリオの変革を進めることで利回り、利息額とも前期並みを維持するが、有価証券利息配当金は減少する見込みであることから資金運用収益全体では前期を下回る見通し。有価証券利息配当金は前期比▲18億円を予想

経費

- 人件費は前期比減少を見込むが、物件費については前期とほぼ同程度を見込み、税金は消費税率引き上げを前提として増加を見込むことから、経費全体では前期並みになる見通し

■ 経常利益 (前期比▲5億円)

- 国債等債券損益の改善により業務純益は前期並みを見込むが、株式等関係損益が減少する見込みであることから経常利益は前期を下回る見通し

■ 当期純利益 (前期比▲4億円)

- 当期純利益は経常利益段階までの減少により前期を下回る見通し

■ 連結ベース

- 親会社株主に帰属する当期純利益は単体同様に資金運用収益の減少を主因として前期比▲1億円の40億円を予想

■ 金利シナリオ

TIBOR3カ月 0.069%
10年国債 ▲0.10~0.20%
短プラ 1.975%

Ⅱ. 新中期経営計画



三陸鉄道リアス線（久慈駅 - 盛駅）

岩手県久慈市の久慈駅と大船渡市の盛駅を結ぶ三陸沿岸の鉄道路線。東日本大震災で不通となっていたJR山田線の宮古駅 - 釜石駅間を、2019年3月に三陸鉄道に移管して運行を再開。これにより、三陸鉄道の既存の路線である南リアス線（釜石駅 - 盛駅間）と北リアス線（久慈駅 - 宮古駅間）がつながり、久慈駅 - 盛駅間が「リアス線」となった。日本の第三セクター鉄道では最長距離（163km）の路線である

目指すのは地域との共存共栄

- 営業基盤である地域との共存共栄を実現するため、当行自らの経営環境の変化への適応性を高めるとともに、地域が抱える様々な課題を解決する機能をさらに強化
- 地域が抱える様々な課題の解決に取り組むことによって、当行と地域のお互いの共通価値を創造する

岩手銀行

- ・ 事業性理解
- ・ 事業性貸出
- ・ コンサルティング
- ・ 消費者ローン、資産形成
- ・ 地方創生
- ・ フィンテック
- ・ 事業領域の創出
- ・ ESG課題への取り組み



共通価値

地域社会

- ・ 後継者、事業承継問題
- ・ 人手、人材不足
- ・ 販路開拓、拡大
- ・ 経営改善（生産性向上など）
- ・ ライフスタイルの変化
- ・ 地域コミュニティの存続

当行と地域の共通価値を創造

地域との共存共栄を実現

新中期経営計画

いわぎんフロンティアプラン ~To the Next~

2019年4月~2023年3月

テーマ

地域の未来を共に創るCSVの実践

お客さまとの関係強化に努め、地域の課題に正面から向き合い、その解決に取り組んでいくことで、お互いの社会的価値と経済的価値を高めていく (Creating Shared Value 共通価値の創造)

4つの基本方針

基本方針 I

地域やお客さまの成長を実現するための質の高い付加価値の提供

- ・事業領域の創出 ・営業活動の高度化
- ・ローンビジネスの推進 ・サービス品質の向上
- ・資産運用ビジネス推進 ・地公体との連携強化
- ・経営改善支援の高度化 ・CS推進の高度化

基本方針 II

BPRの推進とリソース配分の最適化による業務効率性の向上

- ・業務効率性の向上
- ・店舗・ATMの最適配置
- ・執務環境の整備
- ・コスト・マネジメント

基本方針 IV

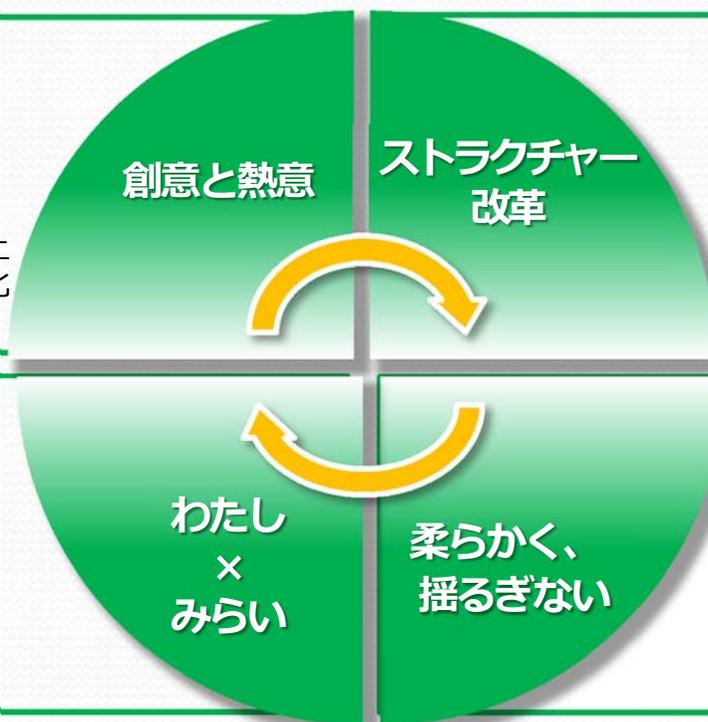
一人ひとりが知恵と行動により主体的に課題解決に取り組む組織風土の醸成

- ・人材育成への取り組み
- ・職員一人ひとりが活躍できる環境の整備

基本方針 III

環境の変化に柔軟に対応できる市場運用・リスク管理・収益管理態勢の構築

- ・審査管理態勢、有価証券運用態勢、リスク管理態勢、内部監査態勢の高度化
- ・コンプライアンス・リスク管理の高度化



- 新中計の計画期間は2019年4月～2023年3月までの4年間として、長期ビジョンの完遂を目指すとともに、次のステージに向けた準備期間と位置付ける
- 前半2年間は、各種施策を前倒しで実施し、収益体質の強化と事業領域の拡大に向けた基盤整備に徹底的に取り組む、後半2年間は、前半2年間で確立した事業基盤と新たな事業領域への取組みを成果に結びつける

長期ビジョン（2013.4～2023.3）

地域の牽引役として圧倒的な存在感を示すとともに、トップクオリティバンクとしての地位を確立する



- 取り巻く環境は厳しいが、各種施策による収益力の強化とBPRを中心とした経営体質の強化を進めて、中計最終年度の連結当期純利益50億円を目指す
- 新中計のテーマである「地域の未来を共に創るCSVの実践」を実現するにあたって、地域が抱える課題解決に資する主要な取組みである事業承継およびM&A支援を主要計数目標として設定する

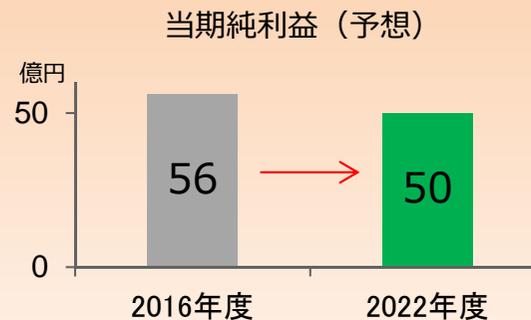
項目	2018年度実績	2022年度（最終年度）目標
連結当期純利益	41億円	50億円
OHR	76.64%	70%台
連結自己資本率	12.24%	10%以上
M&A・事業承継支援先数	477先	2,400先 ※計画期間累計

BPRおよび店舗再編により営業人員の創出と経費削減の両立を実現

経営体質強化プロジェクト (2017年9月～2023年3月)

経営体質の強化

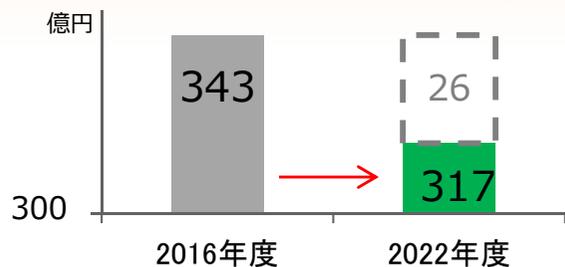
連結当期純利益
50億円
(中計最終年度目標)



営業人員へのシフト100名

収益の落ち込みを抑制

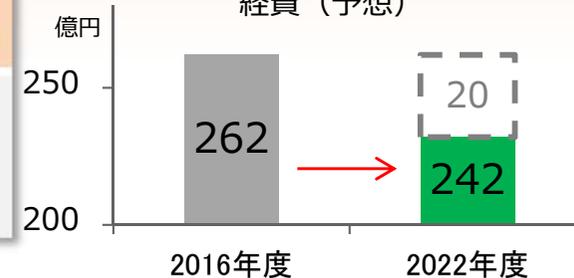
コア業務粗利益 (予想)



経費削減20億円

(2016年度対比)

経費 (予想)



攻め

営業人員の創出
営業体制の強化

守り

経費削減
組織スリム化

本部BPR

- ・業務プロセス見直し
⇒生産性向上
- ・組織・機能の見直し

営業店BPR

- ・事務の削減・効率化
- ・多能工化・スキルアップ

店舗再編

- ・支店内支店方式を活用した拠点の統合
- ・店舗機能見直し

コストマネジメント 事務効率化

- ・設備省エネ対応
- ・店舗コスト削減
- ・事務の本部集中化
- ・ペーパーレス化

事業領域の創出

- ・地域産業育成支援
- ・コンサルティング
- ・次世代産業育成支援 (ほか)

営業人員の創出60名

事務量削減200人分

店舗再編20カ店

※詳細17ページ

地域経済を活性化・下支えするための新たな事業領域を創出

地域産業育成支援 （商社機能の拡大）

- 販路拡大・ブランディング支援
- 遊休不動産活用による地域活性化
- 域内経済活性化
- 観光振興（交流人口、関係人口拡大）

コンサルティング （ソリューション機能の高度化）

- 中核人材紹介
- 民事信託
- リサーチ業務
- 既存分野（事業承継・M&A支援等）の強化

次世代産業育成支援

- いわぎん事業創造キャピタル投資先への成長支援
- ライフサイエンス産業の育成
- 高等教育機関との連携強化

赤レンガ伝統工芸館 ～ IWATE Traditional Crafts Year 2019 ～



岩手銀行赤レンガ館



岩手の伝統工芸品

- ・ 岩手の誇る伝統工芸品の展示および事業者による販売会を岩手銀行赤レンガ館で開催
- ・ 地域商社機能の発揮により、地域ブランドの認知度の向上および販路拡大を支援する取組み
- ・ 外国人観光客などインバウンド拡大にも貢献

事業化に向けた時間軸

2018.10～2019.3
論点整理・候補事業選定

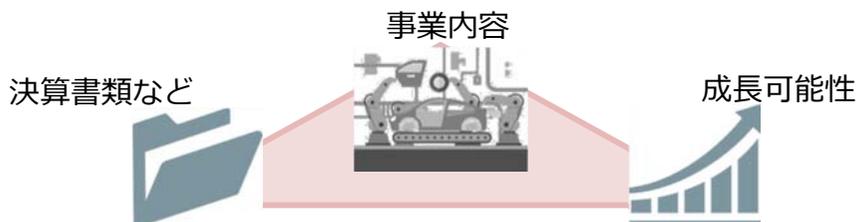
2019.4～2021.3（中計前半2年）
ビジネスモデル確定・事業化

2021.4～2023.3（中計後半2年）
事業の安定化・収益化

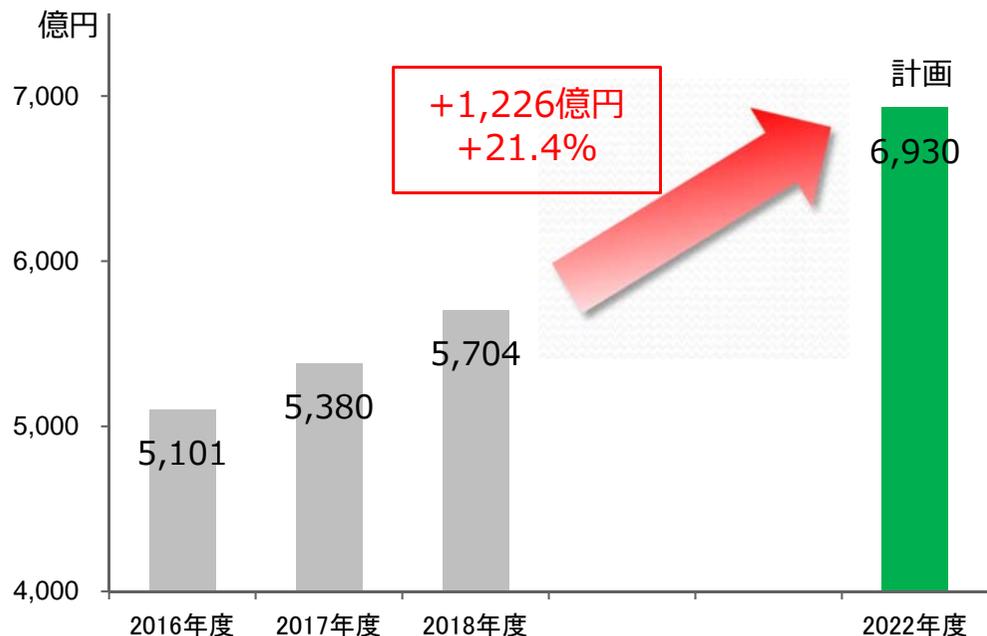
事業性理解の取組みを深化させ、中小企業貸出を増強

事業性理解

- 決算書などの財務内容にとどまらず、お取引先への訪問や経営相談などを通じて情報収集した**事業内容**や**成長可能性**を適切に理解したうえで、担保や保証に過度に依存しない事業性貸出の取組みを引き続き推進



中小企業貸出金平残



貸出金ポートフォリオ

中小企業ポートフォリオを拡大

	貸出金ポートフォリオ (%)			2022年度計画	
	2016年度	2017年度	2018年度	2022年度計画	増減
総貸出金	100.0	100.0	100.0	100.0	
大・中堅企業	25.9	24.3	24.3	18.5	△5.8
中小企業	29.5	31.8	32.3	37.7	5.4
個人	20.6	21.8	21.9	27.1	5.2
地公体	24.0	22.1	21.5	16.6	△4.9
中小企業等※	50.1	53.6	54.3	64.9	10.6

※中小企業等 = 中小企業 + 個人

事業性理解に基づき融資を行っている与信先数および融資額

(金融仲介機能のベンチマーク基準)

社、億円
()内は全与信先に占める割合

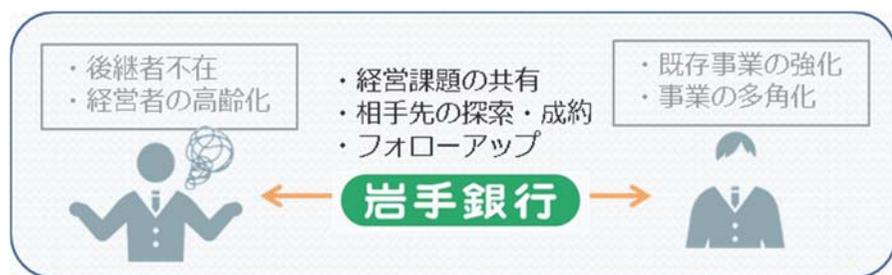
	2016年度末	2017年度末	2018年度末
先数	1,632 (15.1%)	2,727 (25.2%)	4,280 (40.7%)
融資残高	2,732 (29.5%)	3,296 (34.0%)	3,958 (39.4%)

与信先…融資残高がある先のほか、融資枠や保証のみの先も含めたお取引先

地域の雇用を守る事業承継・M&Aや雇用を創出する起業・創業を積極的に支援

事業承継・M&A

- 提携先と連携した的確なコンサルティングにより円滑な事業承継を支援、「いわぎん事業承継サポートローン」による必要資金のバックアップ
- 後継者問題に悩む中小企業、また既存事業の強化や経営多角化を目指す企業に対し、能動的アプローチによりM&Aを支援



起業・創業、ビジネスマッチング

- 新規・第二創業先の創業計画書作成を支援

創業計画書作成支援目標（年間）

100件

いわて産学連携推進協議会（リエゾン-I）

- 大学のシーズと民間企業のニーズをマッチングし、新事業の創出を促進
- のべ109件、1.4億円の研究開発事業化育成資金を贈呈 ※2019年3月末現在



第16回研究開発事業化育成資金贈呈式

いわぎん次世代経営塾

- 地域企業の後継者・若手経営者のマネジメント力を強化、のべ177名の卒業生を輩出 ※2019年3月末現在

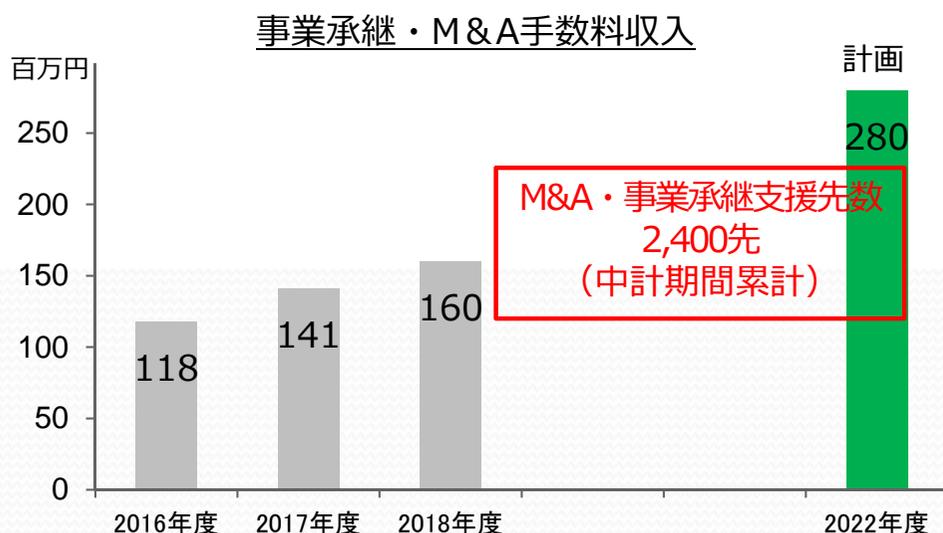


第8期いわぎん次世代経営塾発会式

- 「売上高の増加」「営業利益率の改善」「労働生産性の改善」につながる提案の強化

ビジネスマッチング・海外ビジネス支援等経営課題解決支援件数

3,000件（2022年度）



ライフプラン、ライフイベントに応じた商品・サービスを最適な方法により提供

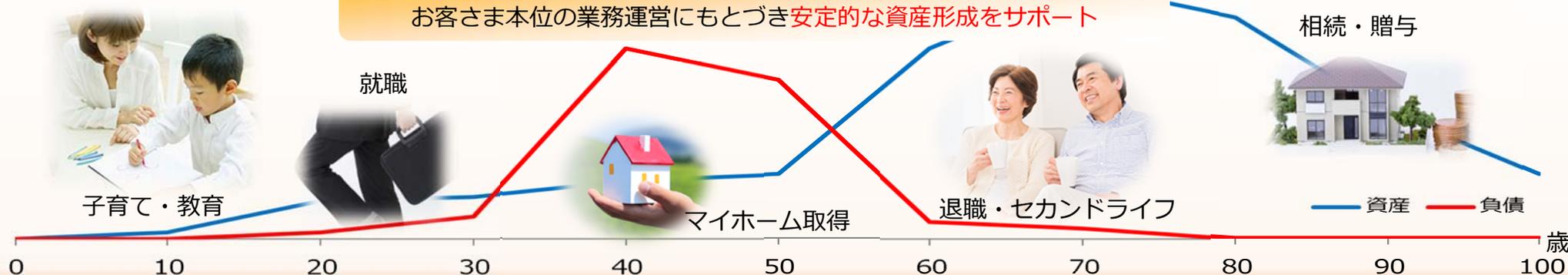
・こども預金
・ジュニアNISA など

・総合口座 ・I be One
・NISA ・iDeCo ・保険商品 など

・年金受取口座 ・教育資金専用口座
・相続向けサービス ・遺言信託 など

・カード、住宅、教育資金など各種ローン

・預り資産
お客さま本位の業務運営にもとづき**安定的な資産形成をサポート**



住宅ローン

- マーケット変化への迅速な対応、商流変革への挑戦

住宅ローン平残：億円



消費者ローン

- ライフイベントに応じた最適商品の提案

消費者ローン平残：億円



預り資産

- 若年・資産形成層へのアプローチ強化による裾野拡大

預り資産残高・手数料



営業基盤である地域の地方創生を積極的に後押し

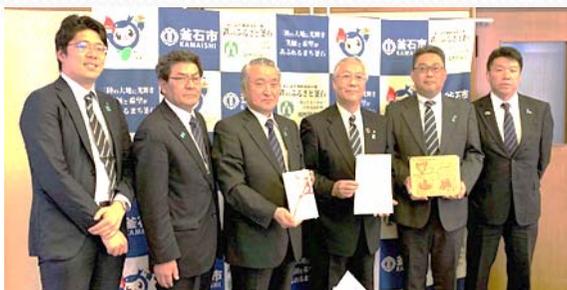
地方創生に関する連携協定

- 2019年3月末現在で、県内27市町村と地方創生に関する連携協定を締結し、各自治体が進める総合戦略の推進をサポート

ラグビーW杯への対応

- 投資信託の販売を通じてラグビーW杯釜石開催を応援
 - ・ラグビー支援ファンドと位置付けた投資信託を販売、本商品の販売総額の0.1%相当額を「釜石市ラグビーこども未来基金」に寄付

～釜石市は東北で唯一のW杯開催地～



寄付金贈呈式 2019年5月

- 応援ポロシャツ着用により地元開催を応援

- ・行員がW杯記念ポロシャツを着用して営業、地域と一緒にW杯を積極的に応援



観光振興

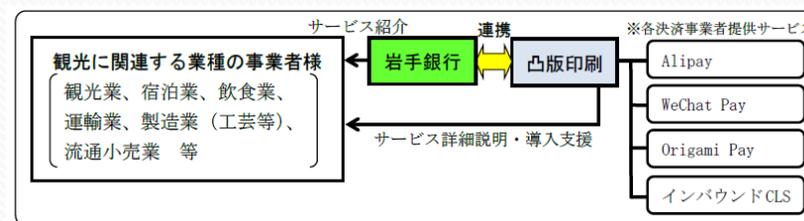
- 「外国人留学生モニターツアー」による支援
 - ・東日本大震災で被害の大きかった三陸沿岸地域の震災復興とインバウンド対策を目的として、地元DMOなどと連携して開催
 - ・2019年3月までに3回開催。外国人留学生と地元観光事業者等との意見交換を通じて、観光客受入拡大に向けた態勢整備と旅行商品の造成につなげている



釜石市でのサイクリング体験（2018年11月）

- キャッシュレス環境の整備

- ・地域の事業者に対して、キャッシュレス対応を含めた送客サービスをトータルサポート



大型豪華客船をおもてなし

2019年4月、宮古市に大型豪華客船「ダイヤモンド・プリンセス」が初寄港

- ・臨時両替所の開設
- ・キャッシュレス対応のサポート
- ・翻訳アプリの提供



利便性の高い金融サービスの提供により、新たな収益機会を創出

チャンネル戦略

- 「**いわぎんアプリ**」のサービスを充実
 - ・ 個人向けのメインチャンネルに位置づけ、スマホを通じてお客さまとの接点を充実
 - ・ 若年層・ミドル層を囲い込み



いわぎんアプリ

- 2019年4月、**個人間送金機能「オクロット！」**開始



- ✓ QRコードにより簡単に請求・支払
- ✓ 地銀初

「オクロット！」テレビCM

- LINEアカウント



- お客さまが**来店不要**なサービスを拡充
 - ・ 「ローン申込」「口座開設」「口座振替受付」など**Webで完結するサービス**を拡充



キャッシュレス

- モバイル送金・決済サービスとの連携
 - ・ お客さまに**多様な決済手段**を提供、決済口座の当行集約化



金融サービスプラットフォーム

- 2019年2月、ほかの地銀などと共同で金融サービスプラットフォームの運営主体となる**(株)フィッティング・ハブ**を設立



Fitting Hub



山梨中央銀行 日本アイ・ビー・エム、AIT、日本電気

- 「**電子交付サービス**」 2019年3月サービス開始
 - ・ 法人のお客さま向け帳票（当座勘定照合票、振替・振込サービスお取引明細表、振込受付書）の「電子交付」を開始



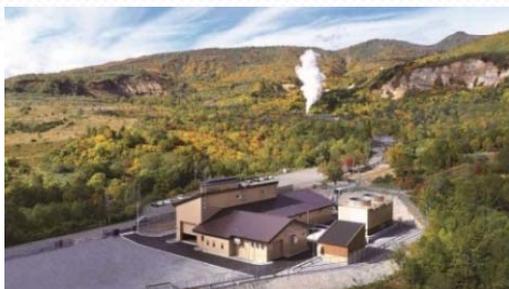
- 「**データ授受サービス**」 2019年度中サービス開始予定
 - ・ 口座振替や振込のデータ授受サービスを金融サービスプラットフォーム上で提供予定
 - ・ 従来の紙やFDなどの媒体が本サービスに切り替わることで**銀行負担も大幅に軽減**

地域の環境保全や社会問題に積極的に取組み、CSVを実践

Environment (環境)

- **再生可能エネルギー**向け融資への積極的な対応

- ・ 2018年度再エネ向け融資実行額51.4億円
※再生可能エネルギー向けプロジェクトファイナンスの実績



豊富な地熱資源を有効活用する
八幡平市地熱資源開発事業を
バックアップ

- **地域特有の自然環境を守り**、ブランドを向上させる取組み

- ・ 漆の国内生産量7割を誇る二戸市の「原木の安定確保」と「漆ブランドの向上」に向けた取組みを支援
- ・ 2017年9月、「漆の林づくりパートナー協定」を締結しパートナー企業として自行の漆の林を取得（愛称：「いわぎん漆の郷」）
- ・ 地元中学生と漆苗木を植栽し、自然保護学習にも活用



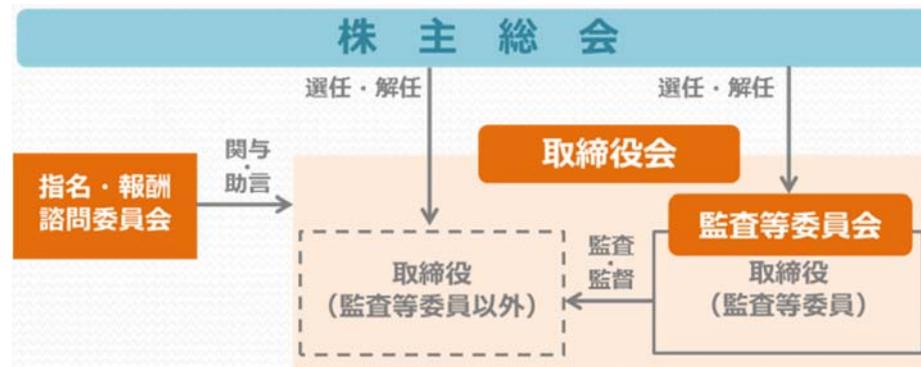
Governance (企業統治)

- 監査等委員会

- ・ 2018年6月、監査等委員会設置会社へ移行。ガバナンスを一層強化

- 指名・報酬諮問委員会

- ・ 取締役の指名・報酬の決定に関する透明性や客観性を確保



- 職員一人ひとりが活躍できる環境を整備

多様な働き方
への対応

ダイバーシティ
への取組み

ポジティブ・アクション
の継続推進



岩手大学・岩手銀行保育所
「がんちゃんすくすく保育園」
(事業所内保育所)

役席者に占める女性の割合

2019/4/1現在	2022/3月末目標
13.0%	15.0%

Social (社会)

- 本業を通じて、**地域企業の持続可能性**や地域の学校等の**教育環境の整備**に貢献
 - ✓ 震災時元本免除特約付き融資「**バックアップ・プラン**」
 - ・お取引先企業の震災への対策強化をサポート
 - ・2019年3月末累計実行額24億円/33社（2018年1月～）
 - ✓ いわぎん寄付型ローン「**エールいわて**」
 - ・貸出金利収入の一部を岩手県に寄付
 - ・同10億円/45件（2018年10月～）
 - ✓ 寄付型CSR私募債 **いわぎん「みらい応援私募債」**
 - ・お取引先企業の資金調達と地域貢献を後押し
 - ・同19億円/13件（2017年2月～）
- **金融教育**により地域の将来を担うこども達の成長を支援

2018年度金融教育活動実績

小学生	「お金のなるほど出前授業」	12回
中学生	職場訪問受入れ	8回
高校生	金融出前授業「MoneyConnection®」	8回
大学生	寄付講座（岩手大学）	2回



- 岩手銀行赤レンガ館の公開を通じて**地域の賑わい**を創出
 - ・クラシックコンサートや各種展示会の会場として貸出



- 「**地域FC活動**」の展開
 - ・新中計の行内向けインナーブランディング施策として、地域をよく見る・知る・体験する「地域FC活動」を展開

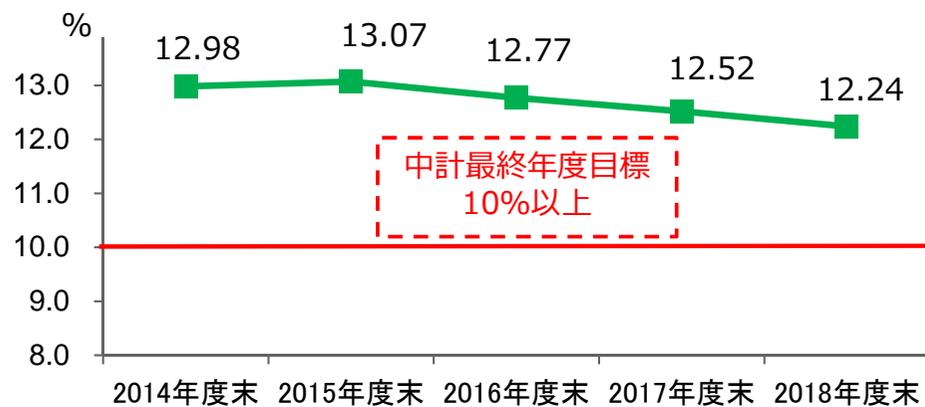
FC

Fan Club、Friendship Campaign、For Customerなどの略称
地域行事への参加を通じて勤務・居住している地域の「ファン」になること、地域との「ふれあい」を推進すること、「お客さま」の視点に立ち返ることなどを目的とする活動

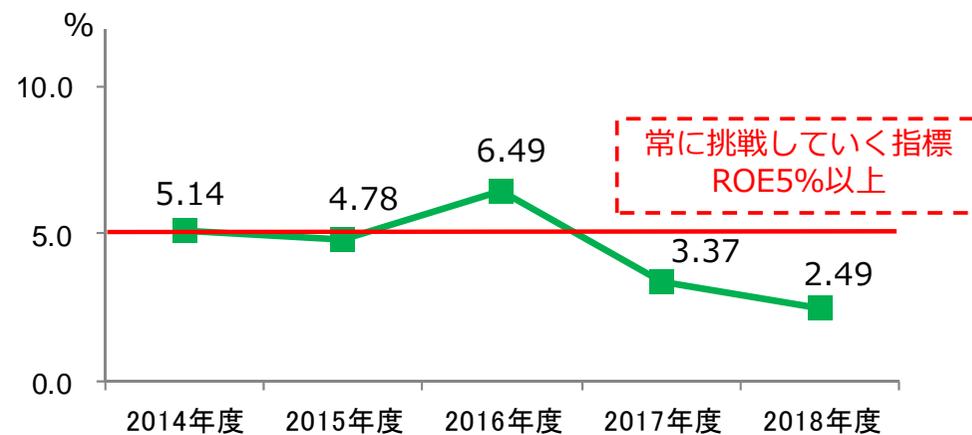


リスクと収益のバランスをとりながら、安定した自己資本を確保していく方針

連結自己資本比率



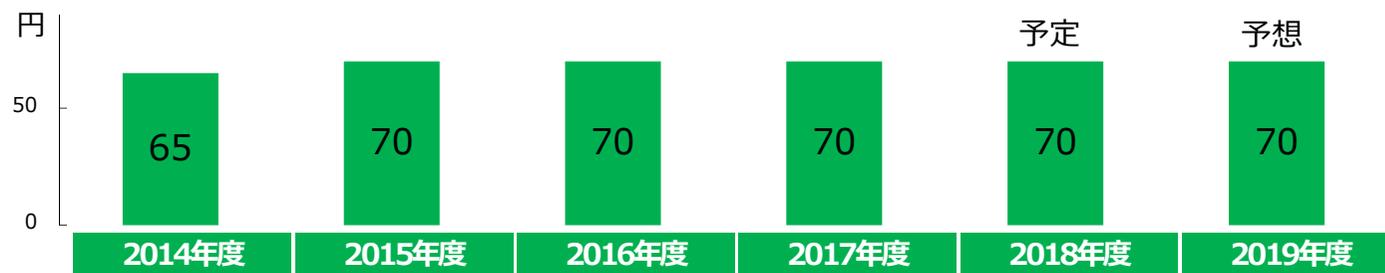
連結ROE (株主資本ベース)



株主還元

配当は「安定配当」を基本として、2019年度は年間70円（普通配当）を見込む

1株当たり年間配当額



配当金総額①	億円	11	12	12	12	12	12
自己株取得総額②	億円	-	-	-	-	-	-
株主還元総額③ (①+②)	億円	11	12	12	12	12	12
当期純利益④	億円	73	70	56	54	44	40
配当性向①/④×100	%	15.7	17.5	22.1	22.8	27.3	30.0
株主還元率③/④×100	%	15.7	17.5	22.1	22.8	27.3	30.0

本日の説明内容についてのご照会等は
下記までお願い致します。

株式会社岩手銀行 総合企画部
広報CSR室 IR担当

T E L : 019-624-8571

F A X : 019-652-6751

E - M A I L : ir-gpd@iwatebank.co.jp

U R L : <https://www.iwatebank.co.jp/>

投資家情報サイト : <https://www.iwatebank.co.jp/ir/>

- ・本資料には、将来の業績に係る記述が含まれております。
- ・将来の業績に係る記述内容は、将来の業績を保証するものではなくリスクや不確実性を内包するものです。
- ・将来の業績は、経営環境等の変化等により異なる可能性があることにご留意ください。